



# 関西経済レポート (8月号)

- ➡ 6月の鉱工業生産指数は前月比+1.7%と3カ月ぶりの上昇。7月の実質輸出は4カ月連続の前月比マイナスとなっており、今後生産は緩やかな減少が見込まれる。
- ➡ 7月の貿易動向は輸出は29カ月連続で前年比増加、輸入は5カ月連続で減少。結果、貿易収支は5カ月連続の黒字だが、黒字幅の拡大ペースは幾分落ちている。
- ➡ 7月の消費者態度指数、景気ウォッチャー現状判断DIはともに前月から悪化。中国経済の先行き懸念から見通しは弱含み。
- ➡ 7月の大型小売店の販売額は、4カ月連続の前年比増加となり緩やかな回復。
- ➡ 7月新設住宅着工戸数は前年比+1.7%と小幅増加。3カ月連続のプラス。持家、貸家の増加が主に貢献。
- ➡ 7月の有効求人倍率と新規求人倍率はともに上昇。失業率は前月から上昇し、4カ月連続の悪化となった。生産も弱含んでおり、雇用の回復は見極めづらい。
- ➡ 7月の公共工事請負金額は前年比-18.2%と2カ月ぶりの大幅マイナス。6月の建設工事は同+5.4%と4カ月連続のプラス。建設工事の伸びは、住宅着工の伸びもあり、幾分加速した。
- ➡ 8月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は、6カ月ぶりに景気判断の分かれ目である50を下回った。PMIは景気転換の「先行指標」であることから、中国経済の景気動向は楽観視できない。

# ～ 関西経済のトレンド ～

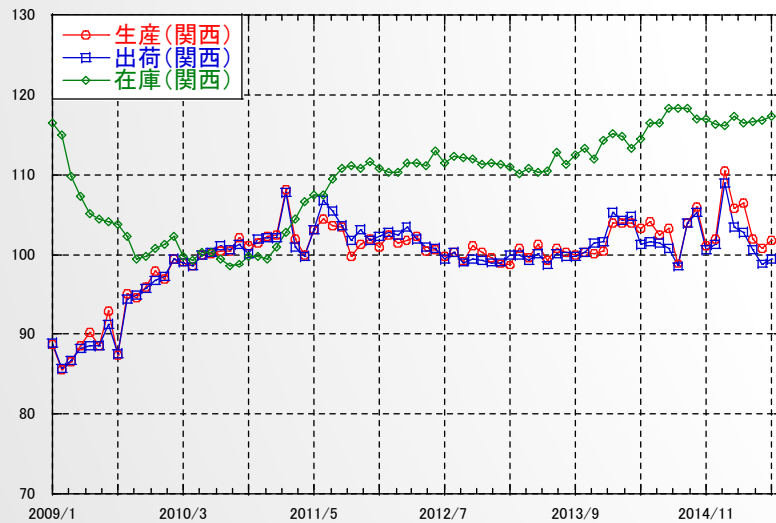
	2014年					2015年							
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
生産	↓	↑	↑	↓	↑	↑	↓	↑	↓	↓	↑	—	—
貿易	→	→	↑	→	↑	↑	↓	↑	↑	↑	↑	↑	—
センチメント	↓	↓	↓	↓	↑	↑	↑	↑	→	↓	↑	↓	—
消費	↑	↑	↑	↑	↑	→	↑	↓	↑	↑	→	↑	—
住宅	↑	↓	↓	↓	↓	↓	↓	→	↓	↑	↑	→	—
雇用	→	→	↑	↑	↑	→	→	→	↑	↑	→	↑	—
公共工事	→	↓	↑	↓	↓	↓	↓	↓	↑	↓	↑	↓	—
中国	↓	↑	→	↓	↓	↓	→	↓	↓	→	→	→	↓

## ～目次～

生産	1
輸出入	2
消費者センチメント	3
個人消費・住宅	4
雇用	5
公共投資	6
中国経済動向	7

# ～生産～

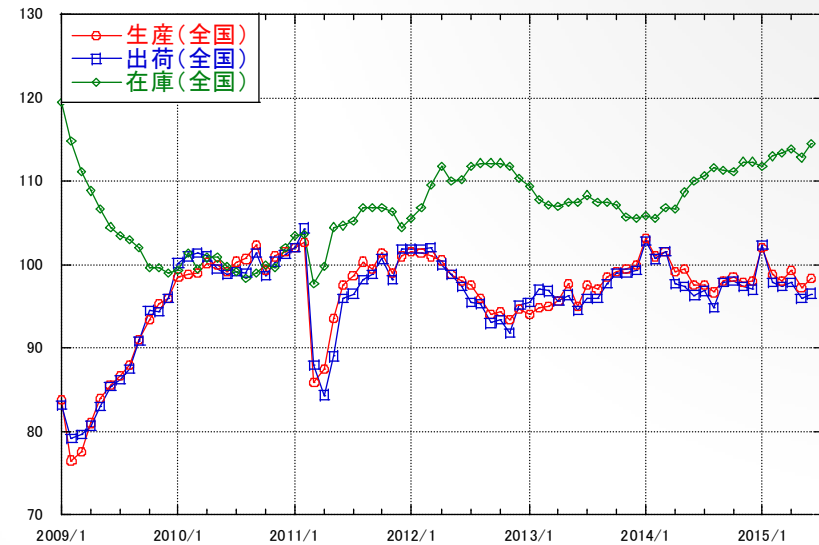
鋳工業指数の推移（近畿・2015年6月まで）、2010年=100



(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

- 関西における6月の鋳工業指数(確報値：季節調整済)は、生産は102.6で前月比+1.7%と3カ月ぶりの上昇、出荷は100.0で同+1.2%と3カ月ぶりの上昇。一方、在庫は117.6で同+0.6%と3カ月連続の上昇となった。
- 業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(同+10.9%)、化学(同+4.4%)、食料品・たばこ(同+5.5%)等が増産となった。一方、電子部品・デバイス(同-11.3%)、金属製品(同-11.2%)、情報通信機械(同-9.7%)等は減産となった。
- 足下の生産が上昇に転じたことから伸びの減速も一服したように見えるが、7月の実質輸出(4カ月連続の前月比マイナス)を見ると前月から減少幅が拡大しており、今後生産は緩やかな減少が見込まれる。

鋳工業指数の推移（全国・2015年7月まで）、2010年=100

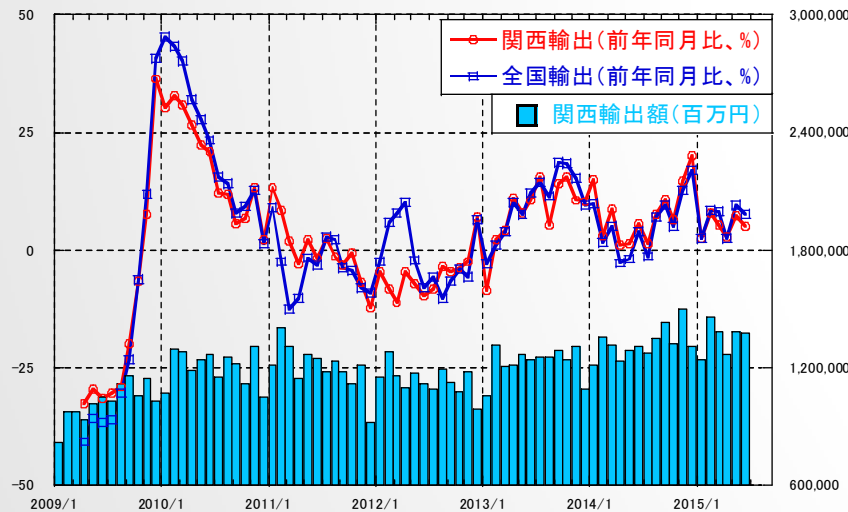


(出所) 経済産業省「鋳工業指数」

- 全国における7月の鋳工業生産指数(速報値、季節調整済)は97.7となり前月比-0.6%、出荷は96.3で同-0.3%、在庫は113.7で同-0.8%といずれも2カ月ぶりの下落。
- 業種別にみると、電子部品・デバイス(同-3.7%, 3カ月連続)、輸送機械(同-1.4%, 2カ月ぶり)、情報通信機械(同-8.4%, 3カ月ぶり)等が減産となった。一方、化学(除. 医薬品)(同+3.4%, 2カ月連続)、金属製品(同+3.0%, 2カ月連続)、石油・石炭製品(同+2.7%, 3カ月ぶり)等は増産となった。
- 製造工業生産予測調査では8月は前月比+2.8%と増産の予定であるが、9月は同-1.7%と減産となっており、生産の動きにやや一服感がみられる。

# ～輸出入～

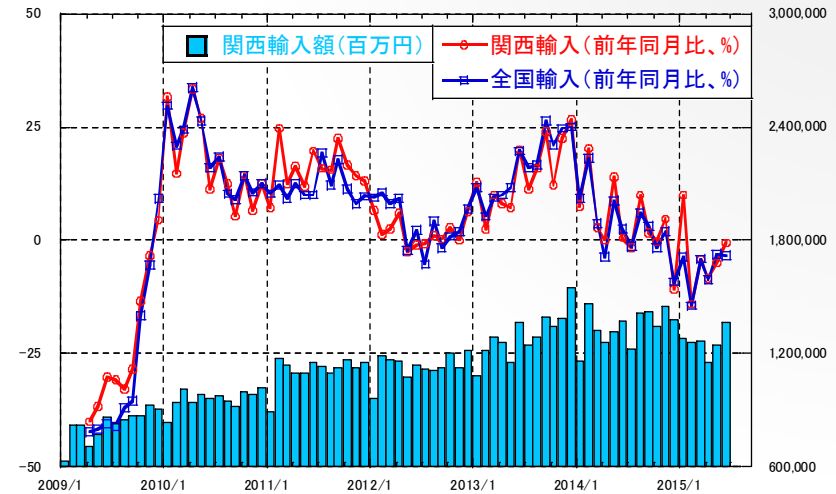
輸出動向 (右：輸出額、左：前年同月比) (2015年7月まで)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

- 関西7月の輸出額(速報値)は1兆3,745億円、前年同月比+4.9%と29カ月連続の増加。
- 輸出増加に主に貢献したのは、半導体等電子部品、通信機であった。一方、鉱物性燃料、有機化合物は減少となった。
- 全国7月の輸出額(確報値)は6兆6,637億円となり、前年同月比+7.6%と11カ月連続の増加。財別に見れば、自動車、船舶、半導体等電子部品等の輸出が増加した。
- なお、足下、為替レート(税関長公示レートベース)は123.01円と前年同月比20.9%の円安であった。

輸入動向 (右：輸入額、左：前年同月比) (2015年7月まで)

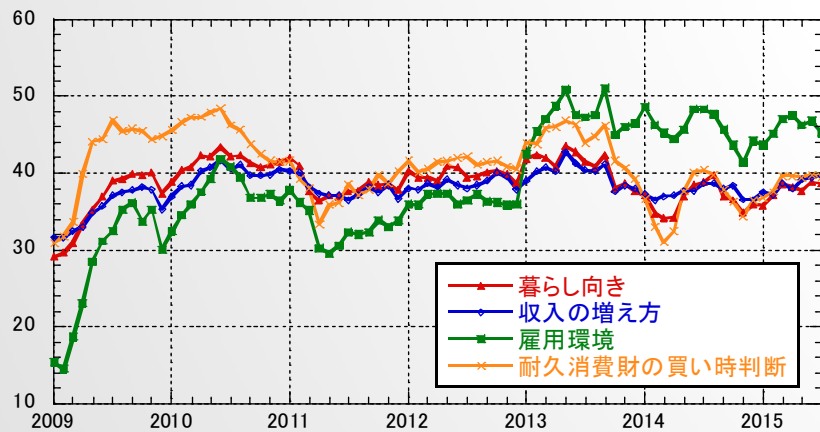
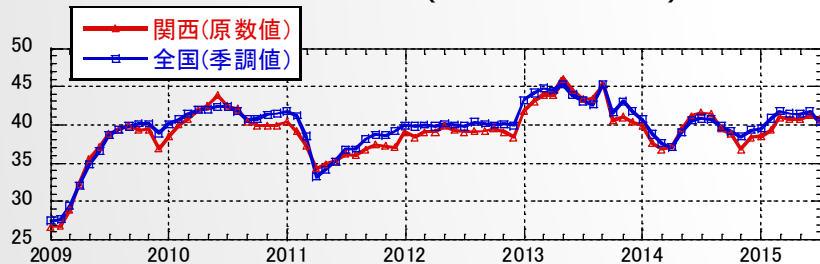


(出所) 財務省「貿易統計」

- 関西7月の輸入額(速報値)は1兆3,653億円、伸びは前年同月比-0.6%と5カ月連続の減少。
- 財別に見れば、天然ガス及び製造ガス、原油及び粗油等が減少した。ちなみに、原油及び粗油は、価格の下落もあり同-26.6%のマイナスとなった。通信機(単月過去最高額)、有機化合物(過去最高額)等は増加した。
- 全国7月の輸入額(速報値)は6兆9,321億円、前年同月比-3.2%と7カ月連続の減少。財別に見れば、原粗油、液化天然ガス、石油製品等の輸入が減少した。
- 結果、関西の貿易収支(速報値)は+93億円と5カ月連続の黒字となり、前年同月から724億円の改善。全国の貿易収支(速報値)は-2,684億円と4カ月連続の赤字だが、赤字幅は前年同月から-72.2%縮小した。

# ～消費者センチメント～

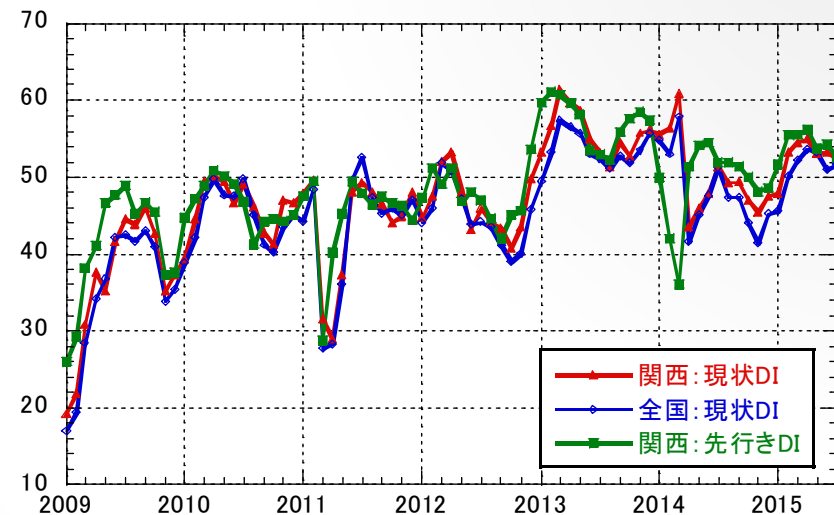
消費者態度指数(2015年7月まで)



(出所) 内閣府「消費動向調査」

- 関西の7月の消費者態度指数(原数値)は前月比-0.4ポイントの40.8と、2カ月ぶりに悪化した。全国(季節調整値)でも同-1.4ポイントの40.3とこちらも2カ月ぶりの悪化となった。結果、内閣府は全国の消費マインドについて「持ち直しのテンポが緩やか」から「足踏みがみられる」へと下方修正した。
- 関西で同指数の構成項目をみると、7月は4つの意識指標のうち3つが前月から悪化した。「収入の増え方」は同+0.2ポイントと3カ月連続で上昇したものの、「雇用環境」は同-1.5ポイントの低下、「耐久消費財の買い時判断」は同-0.3ポイントの低下、「暮らし向き」は同-0.2ポイントの低下といずれも2カ月ぶりの悪化となった。

景気ウォッチャー調査(2015年7月まで)



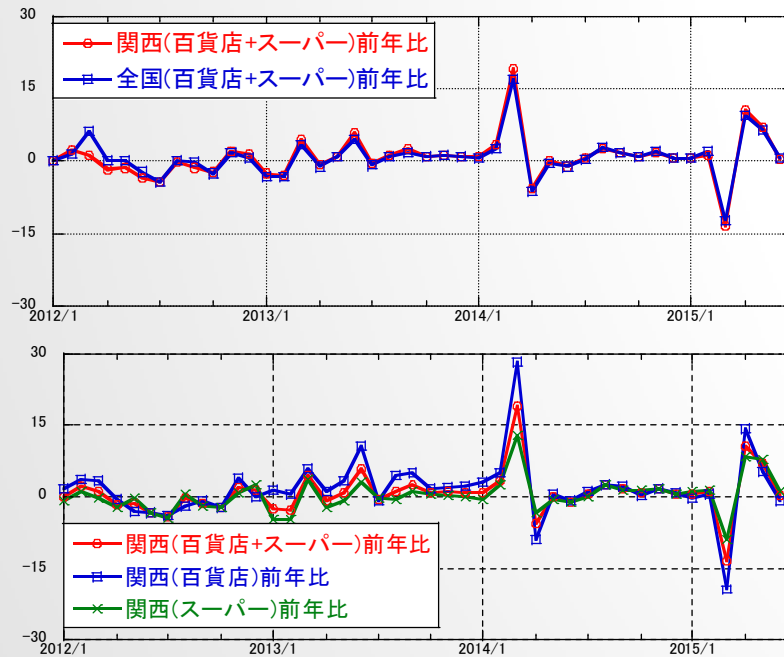
(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

- 関西の7月の現状判断DIは前月比-0.9ポイント低下の52.4となり、2カ月ぶりの悪化。台風の接近が客足に影響したことや、猛暑による出控えなどが悪化に寄与したとみられる。一方、全国は同+0.6ポイント上昇し51.6となり3カ月ぶりの好転。
- 先行き判断DIは、関西では52.6と前月比-1.6ポイントと2カ月ぶりの低下。円安による物価上昇や原材料コスト増加に対する不安が大きいこと、中国経済の先行きへの懸念とインバウンド関連の好調に水を差すとの心配が見通しを悪化させているとみられる。



# ～個人消費・住宅～

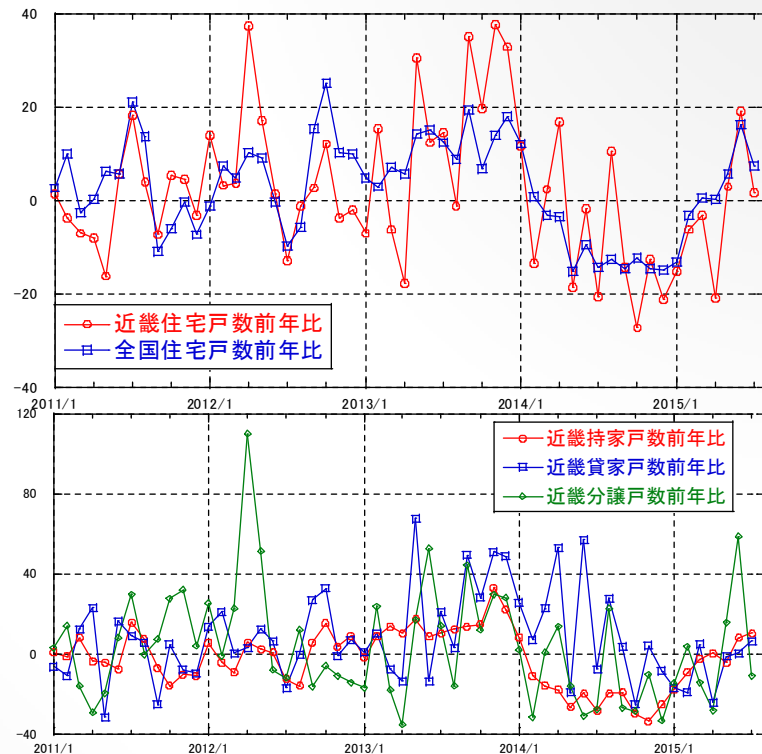
大型小売店販売額（前年同月比：％、2015年7月まで）



(注) 福井県を含む。  
(出所) 経済産業省「商業動態統計」

- 関西7月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比+3.0%増加し、4カ月連続のプラス。
- 百貨店は同+2.7%増加し、2カ月ぶりのプラス。
- スーパーは同+3.1%と4カ月連続のプラス。
- 全国の大型小売店販売額(7月、全店ベース)は同+3.2%と4カ月連続のプラス。
- 消費の伸びは関西、全国共に緩やかな回復となっている。
- なお、今月から調査対象事業所の見直しを行ったため、近畿の合計、スーパー、および全国の合計の伸びは前年の販売額にリンク係数を乗じた上で算出されていることに注意。

新設住宅着工(前年同月比：％、2015年7月まで)

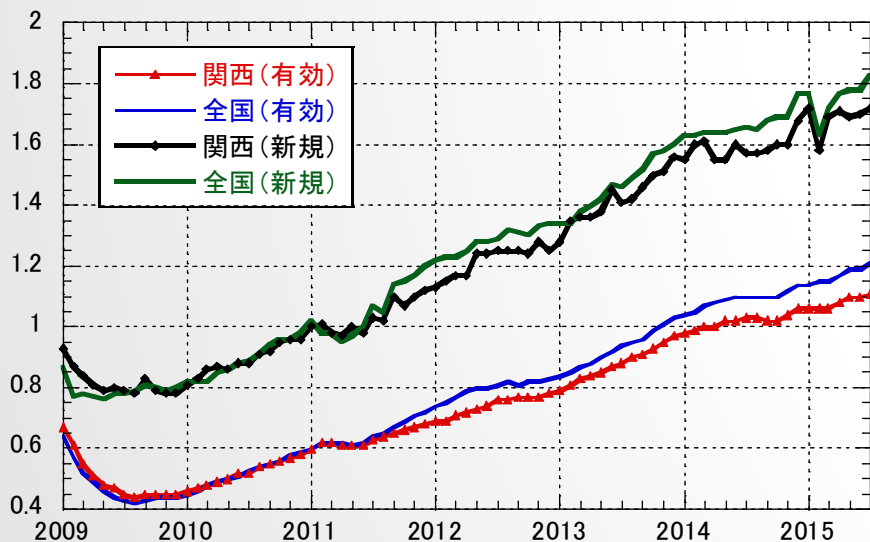


(出所) 国土交通省「住宅着工統計」

- 関西7月の新設住宅着工戸数は10,210戸。前年同月比+1.7%増加し、3カ月連続のプラスとなった。
- 全国は78,263戸、同+7.4%増加し5カ月連続のプラス。
- 関西の住宅着工を利用関係別にみると、持家は2,950戸。同+10.6%と2カ月連続の増加。貸家は4,163戸、同+6.5%と2カ月連続のプラス。分譲は3,070戸、同-10.7%減少し、3カ月ぶりのマイナス。
- 7月の関西マンション契約率は71.7%(季節調整値、APIR推計)。好不調の目安となる70%を5カ月連続で上回っている。首都圏は73.6%(季節調整値、APIR推計)となった。
- 住宅着工の伸びは小幅にとどまった。

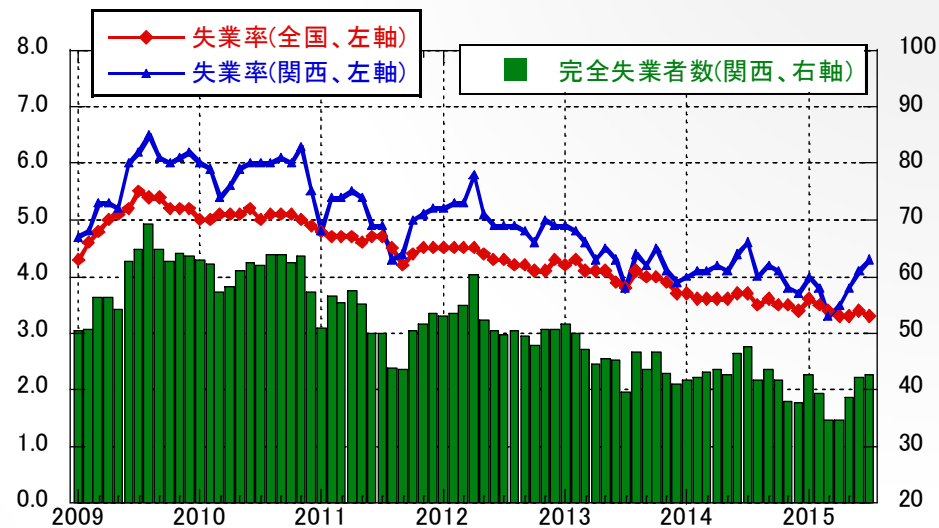
# ～雇用～

求人倍率の推移 (季節調整値、2015年7月まで)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

完全失業率の推移 (季節調整値：%、万人、2015年7月まで)



(出所) 総務省「労働力調査」

関西2府4県有効求人倍率(受理地別)(2015年7月)

	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
7月	1.21	1.11	1.05	1.15	1.20	0.98	1.03	1.03
6月	1.19	1.10	1.06	1.13	1.19	0.96	1.02	1.04

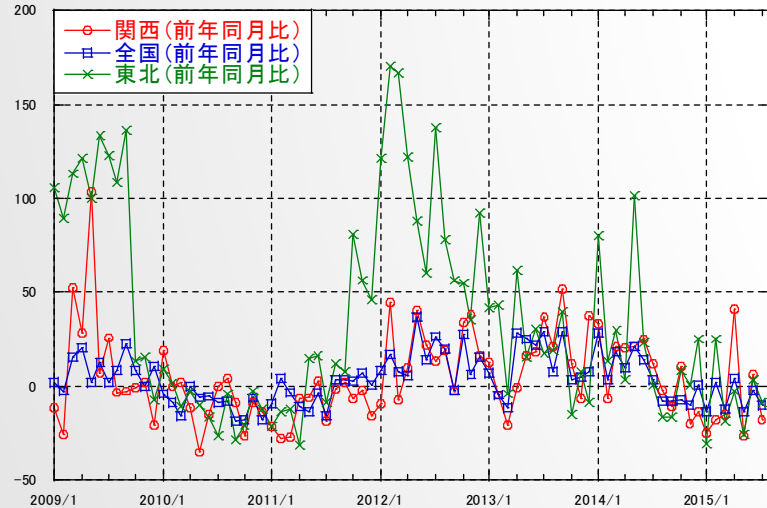
- 7月の関西の有効求人倍率は、1.11倍で前月比+0.01ポイント上昇。2カ月連続の横ばいの後、小幅上昇。全国は1.21倍で同+0.02ポイント上昇し、3カ月ぶりの上昇。1992年2月(1.22倍)以来の高水準となった。
- 府県別では、京都府と兵庫県で同+0.02ポイント上昇、大阪府と奈良県で同+0.01ポイント上昇。一方、滋賀県と和歌山県では同-0.01ポイント低下した。
- 7月の関西の新規求人倍率は、1.72倍と前月比+0.02ポイント上昇。全国は1.83倍と同+0.05ポイント上昇した。
- 関西の産業別新規求人数は、宿泊・飲食サービス業で前年同月比+24.8%と大幅に伸びた。その他は生活関連サービス業、医療・福祉、卸・小売業、製造業で増加した。

- 7月の関西の完全失業率(季節調整値：APIR推計)は4.3%で前月(4.1%)から0.2%ポイント上昇し、4カ月連続の悪化。非労働力人口(季節調整値)の増加と就業者数の減少による。生産も弱含んでおり、雇用の回復は見極めづらい。
- 関西の完全失業者数(季節調整値：APIR推計)は42.5万人で前月(42.2万人)から0.3万人小幅増加した。
- 全国の完全失業率(季節調整値)は3.3%と前月から0.1%ポイント低下した。求職理由別にみると、勤め先や事業の都合による「非自発的な離職」が減少している。全国の雇用環境は改善が続いている。
- 15～64歳の就業率(原数値、全国ベース)をみると、73.3%となり、前年同月比+0.7%ポイント上昇。昨年 하반기から高水準が続いている。



# ～公共投資～

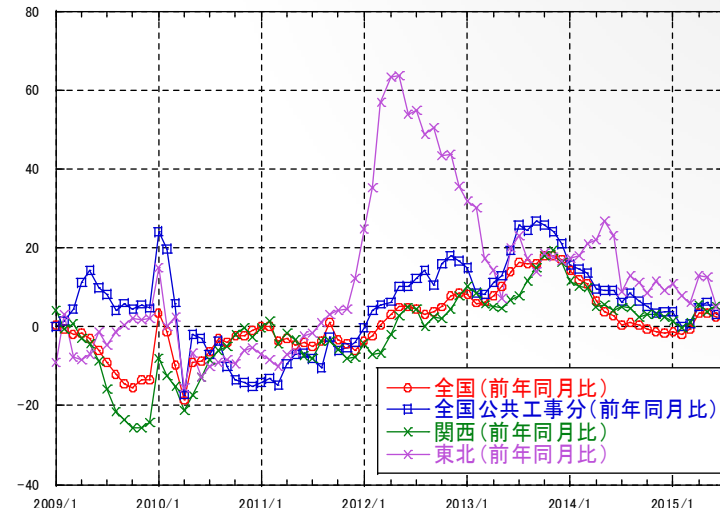
公共工事請負額(前年同月比：%、2015年7月まで)



(注) 福井県を含む。  
(出所) 東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

- 関西7月の公共工事請負金額は1,346億円、前年同月比-18.2%と2カ月ぶりの大幅マイナス。
- 全国は1兆4,632億円で同-10.1%と3カ月連続のマイナス。
- 東北は2,664億円で同-8.6%減少し、2カ月ぶりのマイナス。
- 季節調整値(APIR推計)で見ると、関西、全国共に2カ月ぶりに前月から減少となった(関西：同-24.5%、全国：同-12.0%)。

建設工事(前年同月比：%、2015年6月まで)

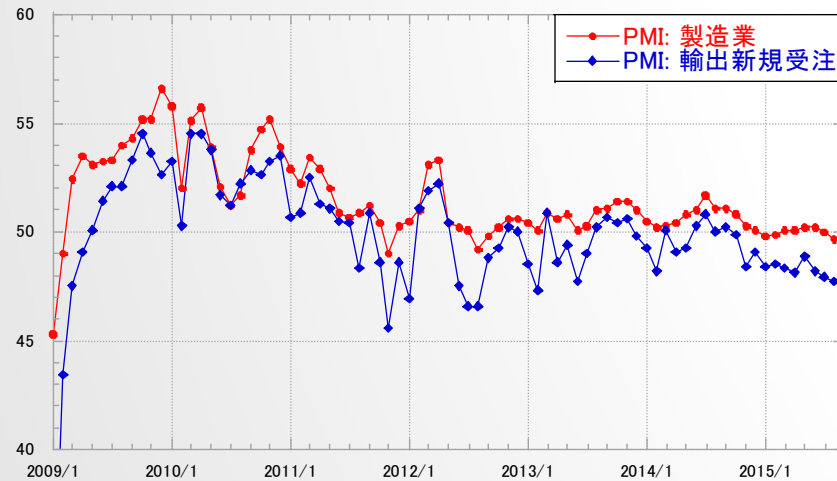


(出所) 国土交通省「建設総合統計」

- 関西6月の建設工事は4,870億円、前年同月比+5.4%と4カ月連続のプラス。
- 東北は5,147億円、同+5.2%と47カ月連続の増加。
- 全国は3兆7,270億円となり、同+2.5%と3カ月連続のプラス。
- うち、全国の公共工事は同+3.1%増の1兆4,544億円となった。伸びは41カ月連続の増加。増加幅は15カ月連続で1桁にとどまっている。
- 建設工事は、住宅着工の増加もあり、増加となった。

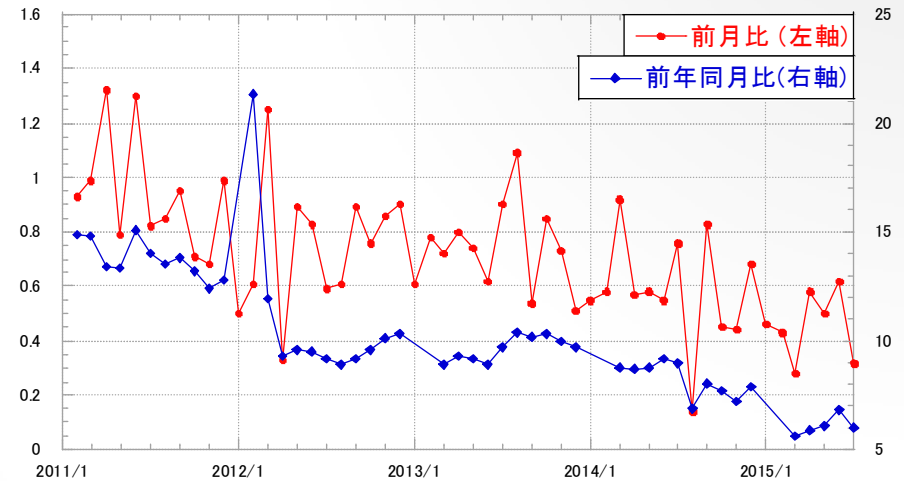
# ～中国経済動向①～

製造業購買担当者景況指数 (2015年8月まで：%)



(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

工業生産指数(2015年7月まで：%)



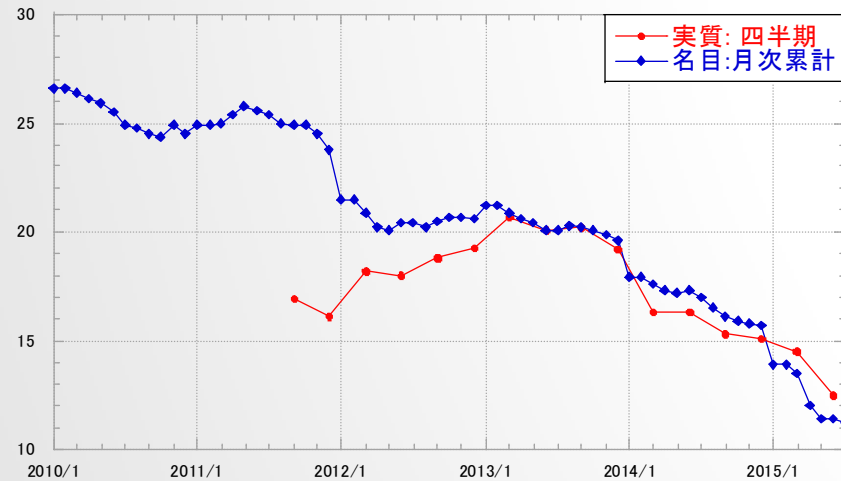
(出所) 中国税関; CEICデータベース(APIR推計)

- 8月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は、前月比-0.3ポイント低下し49.7となった。6カ月ぶりに景気判断の分かれ目である50を下回った。
- うち、生産指数は-0.7ポイント低下し51.7となった。2カ月連続の前月比マイナス。新規受注指数は同-0.2ポイント低下の49.7となり、3カ月連続のマイナス。また、輸出新規受注指数は47.7となり、同-0.2ポイント下落した。11カ月連続で50を下回った。雇用指数は47.9となり、同-0.1ポイント低下した。PMIは景気転換の「先行指標」であることから、中国経済の景気動向は楽観視できない。

- 7月の工業生産は前月比+0.32%上昇し、前月の伸びから-0.3%ポイント低下した。伸び率は今年3月(+0.28%)に次ぐ低い数値となった。前年同月比は+6.0%となり、伸びは前月より-0.8%ポイント低下し、昨年通年の伸び(+8.2%)を下回る状況が続いている。
- 産業別に見ると、有色金属圧延加工業(同+13.0%)、医薬製造業(同+10.3%)、ゴム・プラスチック製品製造業(同+10.3%)、パソコン・通信及びその他電子設備製造業(同+9.4%)等が高い伸びを示す一方で、電力・熱力生産・供給業(同-0.9%)、自動車製造業(同-0.5%)はマイナスに転じ、専用設備製造業(同+4.8%)、鉄鋼などの製錬・圧延加工業(同+4.1%)、通用設備製造業(同+4.0%)等は比較的低調な伸びにとどまった。

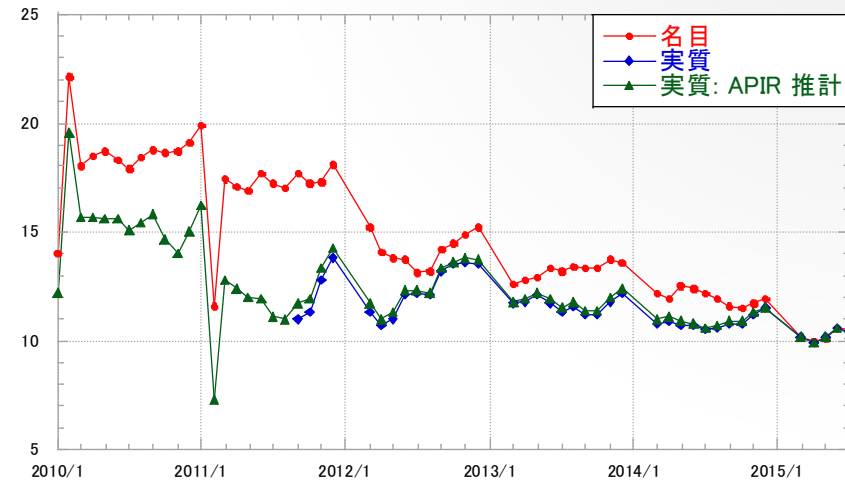
## ～中国経済動向②～

固定資産投資 (2015年7月まで：%) (累積伸び率)



(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

社会消費品小売総額 (2015年7月まで：%)



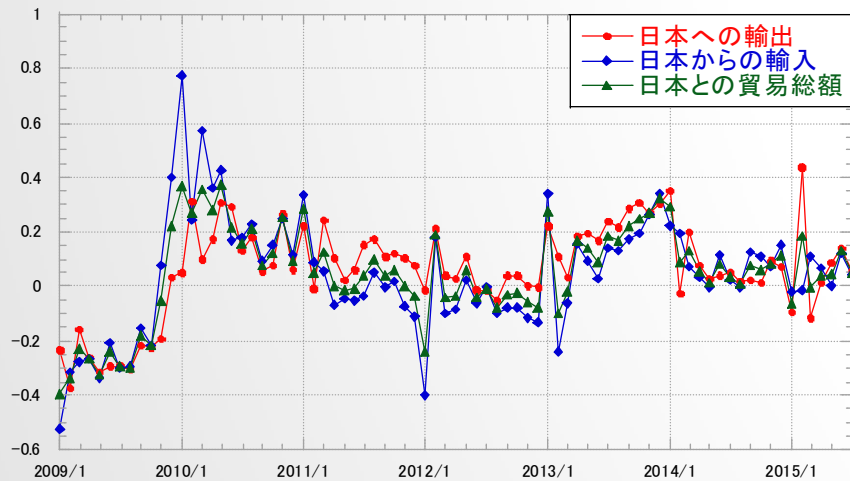
(注) APIR推計値は小売価格指数を用いて推計  
(出所) 中国税関; CEICデータベース(APIR推計)

- 1-7月期の(累積)固定資産投資(名目)は前年同期比+11.2%、伸びは3カ月ぶりの低下となった(1-6月期:+11.4%)。2013年後半以降減速トレンドにあり、今年入りの最低水準となった。
- 産業別にみれば、第1次産業は同+28.2%(1-6月期:+27.8%)、2カ月ぶりの増加であるが、第2次産業は同+9.0%(1-6月期:+9.3%)、第3次産業は同+12.1%(1-6月期:+12.4%)となり、減速が続いている。

- 7月の社会消費品小売総額の名目成長率は前年同月比+10.5%と前月(同+10.6%)よりマイナス0.1%ポイント低下した。昨年通年の伸び(+12.0%)を依然下回っている。

## ～中国経済動向③～

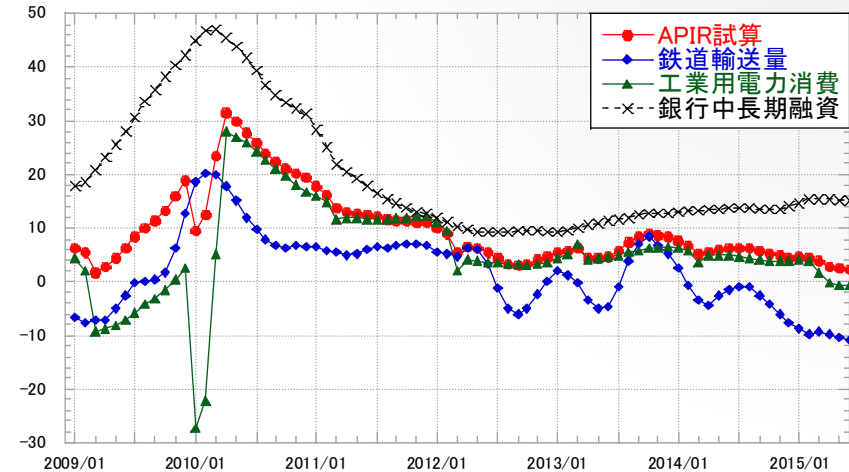
日本との貿易 (前年同月比：円ベース)(2015年7月まで：%)



(出所) 中国税関; CEICデータベース; APIR計算

- 7月の中国の輸出額(速報値、ドル・ベース)は前年同月比-8.4%と2カ月ぶりのマイナス。輸入額は同-8.2%(速報値)と内需の低迷を反映し9カ月連続のマイナス。マイナス幅は前月(輸入額:-6.3%)より拡大した。
- うち、日本への輸出額は同-13.0%、5カ月連続のマイナス。日本からの輸入額は同-13.6%、9カ月連続のマイナス。
- 円ベースに換算すると、日本への輸出額は同+5.3%となり、4カ月連続のプラス。日本からの輸入額は同+4.6%と5カ月連続の増加だが、前月(同+12.1%)から伸びは縮小した。

APIR試算のリコノミクス指数と実質GDP成長率の推移

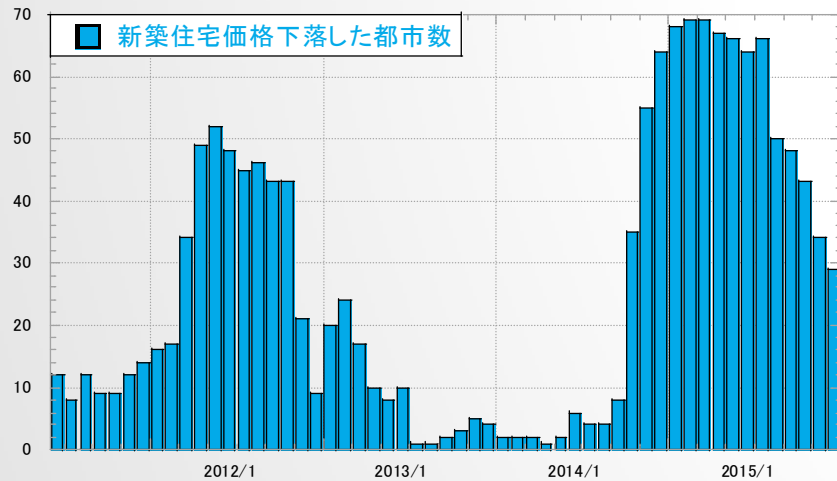


(出所) 中国税関; CEICデータベース; APIR計算

- 景気の動向をよく示す指数として、本研究所ではリコノミクス指数を参考に中国経済のトレンドを表している。
- 2015年7月のリコノミクス指数(APIR試算)は前年比+2.1%、6カ月連続の悪化となった。内訳をみると、銀行中長期融資は同+14.8%、前月(同+15.0%)から-0.2%ポイント減少した。工業用電力消費量は同-0.6%、前月(同-0.6%)から横ばい。鉄道輸送量は同-11.2%、前月(同-10.9%)より減速幅が拡大している。リコノミクス指数から見た7月の中国経済は幾分前月から悪化した。

## ～中国経済動向④～

新築住宅価格の主要都市集計 (2015年7月まで：都市数)



(出所) 中国労働市場情報観測センター; CEICデータベース; APIR計算

- 不動産価格（新築住宅価格）を見ると、中国主要70都市のうち、7月は29都市で下落した。31都市で前月に比べ上昇、10都市で横ばいとなった。下落した都市の数は5カ月連続の減少である。

## ※関西経済のトレンド 評価基準について

- 生産：近畿経済産業局『近畿地域鉱工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- 貿易：大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- センチメント：内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- 消費：近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- 住宅：国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- 雇用：厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- 公共工事：西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。